

## 事例研究報告

# 特別支援学校小学部児童に対する ひらがなのなぞり書きをするための 指導

# 児童の実態

## ○実態

知的障がい，広汎性発達障がい，  
言語発達障がい

歌やリズム遊びが好きである。  
かわいい物やイラストが好きである。  
対面課題では毎回20分程度で7課題に  
取り組んでいる。

# 児童の実態

## ○なぞり書きに関する実態

- ひらがなを読むことができる。
- 縦，横，斜めの線のなぞり書きができるが，下書きから1cm以内程度のずれはある。
- 1辺15cm程度の枠で簡単なひらがなの下書きをなぞる課題を行っている。

# 児童の実態

## ○なぞり書きに関する実態（続き）

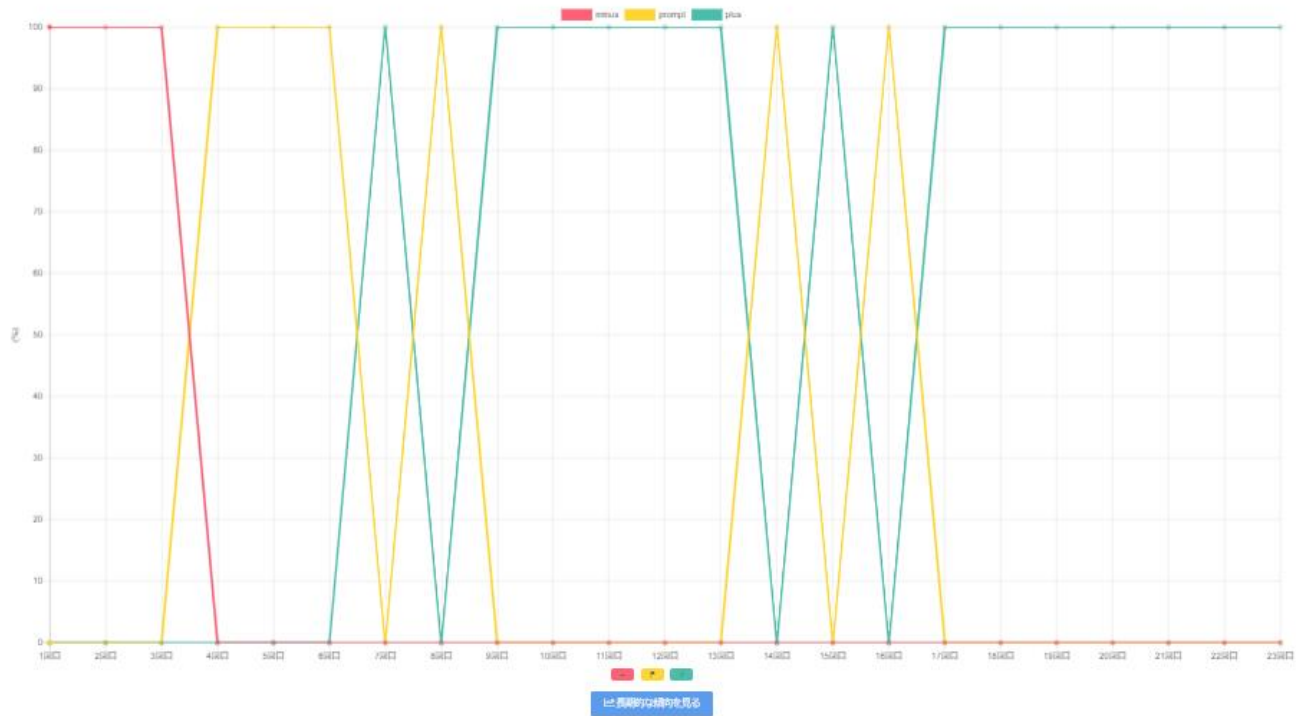
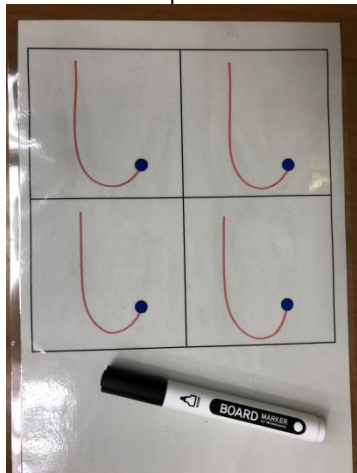
- 終点で止めることが難しく、以前は厚めの紙等のジグを使っていたが、現在は丸シール等で終点に印をつけて止める練習している。終点の辺りで教師が「ピタッ」の言葉かけをしている。
- 筆圧が弱いため、なぞり書きの課題はマーカーを使用している。クレヨンでの簡単な塗り絵にも継続して取り組み、隙間なく力強く塗る練習をしている。

# 児童の実態

## ○「し」なぞり書き

- ・毎回4試行行った。4試行ともできたら「+」表記。

ひらがなの書き（なぞり）「し」



- + ■ 「なぞることができた」
- P ■ 「身体プロンプトを受けてできた」
- ■ 「できなかった」

## 保護者の願い

- ひらがなが書けるようになってほしい。

## 教員の願い

- ひらがなのなぞり書きができるようになってほしい。
- 終点の印で止めることができるようになってほしい。

## アドバイザーからの助言（1回目）

- 下書きを大まかになぞり、終点の印付近で終わることができているため、今後の進め方について助言を受けた。
- 書ける文字のレパートリーを増やす。  
（これまでと形の違うもので簡単なもの）
- 聴写と模写を試して、できる方に移行する。
- これまで使用していた「ラミネートシートにマーカー」は滑りやすく、止めにくいため、「紙にクレヨン」等を使用する。
- 書くときに「シュツ」「くるりん」など音声をつける。
- エラーレスで学習を進める。

# 助言を受けての見直し(1回目)

- 聴写と模写を試した結果、聴写は難しかったが、模写は大まかな形をとることができる文字があったため模写に取り組むこととした。
- 今後は「の」「こ」のなぞり書き＋模写に取り組む。
- A4用紙に2枠。左側の枠は下書きをなぞる、右側の枠は空白で模写するようにする。クレヨンを使用する。
- 書くときに教師が「シュツ」「くるりん」など音声をつける。終点で「ピタッ」と言うことは継続。
- エラーしそうになった時やエラーした後にはすぐに身体プロンプトを行う。



# 指導1の手続き

## ○「の」「こ」 なぞり書き＋模写

- ①下書きを読ませてから、なぞる手本を見せる。
  - ②クレヨンでなぞらせる。
  - ③模写させる。
  - ④「グッジョブ！」と言語称賛する。
- 「の」「こ」それぞれ2枚ずつ取り組む。はじめは身体プロンプトを行い、慣れてきたら見守る。エラーしそうな時やエラーした場合は身体プロンプトを行う。

# 記録方法と記録

○AI-PACを利用して記録する。

- + ■ 「なぞることができた」
- P ■ 「身体プロンプトを受けてできた」
- ■ 「できなかった」

# 指導1の成果

ひらがなの書き（模写） / のの長期的傾向

アカデミック/文字  
ひらがなの書き（模写）

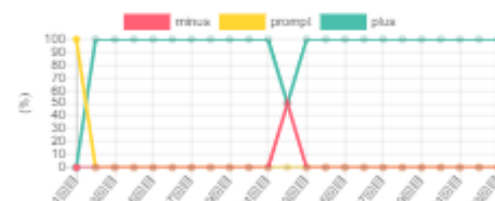


## 実施課題結果一覧

2020/10/05 の: ⊕+	2020/10/06 の: ⊕⊕	2020/10/14 の: ⊕⊕	2020/10/16 の: ⊕⊕
2020/10/20 の: ⊕⊕	2020/10/21 の: ⊕+	2020/10/22 の: ⊕⊕	2020/10/25 の: ⊕⊕
2020/10/26 の: ⊕⊕	2020/10/27 の: ⊕⊕	2020/10/28 の: ⊕⊕	2020/11/04 の: ⊕⊕
2020/11/05 の: ⊕⊕	2020/11/06 の: ⊕⊕	2020/11/09 の: ⊕⊕	2020/11/10 の: ⊕⊕
2020/11/12 の: ⊕⊕	2020/11/17 の: ⊕⊕	2020/11/18 の: ⊕⊕	2020/11/19 の: ⊕⊕
2020/11/24 の: ⊕⊕	2020/11/26 の: ⊕⊕	2020/11/27 の: ⊕⊕	

ひらがなの書き（模写） / この長期的傾向

アカデミック/文字  
ひらがなの書き（模写）

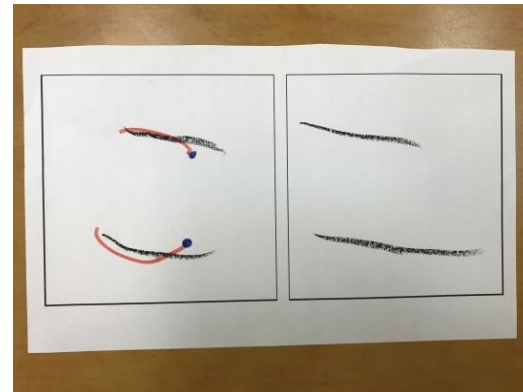
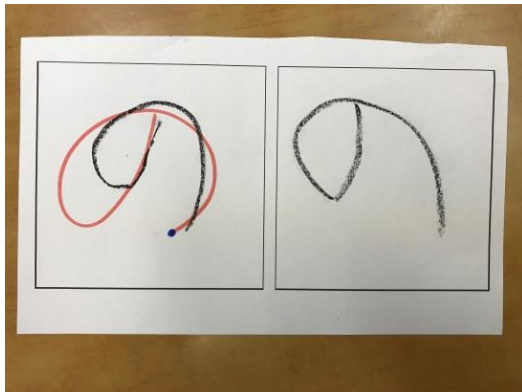


## 実施課題結果一覧

2020/10/05 こ: ⊕⊕	2020/10/06 こ: ⊕⊕	2020/10/14 こ: ⊕⊕	2020/10/16 こ: ⊕⊕
2020/10/20 こ: ⊕⊕	2020/10/21 こ: ⊕⊕	2020/10/22 こ: ⊕⊕	2020/10/25 こ: ⊕⊕
2020/10/26 こ: ⊕⊕	2020/10/27 こ: ⊕⊕	2020/10/28 こ: ⊕⊕	2020/11/04 こ: ⊕+
2020/11/05 こ: ⊕⊕	2020/11/06 こ: ⊕⊕	2020/11/09 こ: ⊕⊕	2020/11/10 こ: ⊕⊕
2020/11/12 こ: ⊕⊕	2020/11/17 こ: ⊕⊕	2020/11/18 こ: ⊕⊕	2020/11/19 こ: ⊕⊕
2020/11/24 こ: ⊕⊕	2020/11/26 こ: ⊕⊕	2020/11/27 こ: ⊕⊕	

# 指導1の成果

- 「の」「こ」ともに大まかな形を書くことができ、達成した。
- 「の」については始点を間違えることがあった。
- 「こ」については終点できっちりと止めることはできず、1画目2画目ともはらうような感じで終わっていた。



- その他、以前より取り組んでいた「つ」「い」「う」「り」のなぞり書きを達成した。

## アドバイザーからの助言（2回目）

○新しい文字を試した際、「へ」や「く」などの角のある文字は同じ形になぞることが難しかった。角がなく直線に近い形になる。それに対しての助言を受けた。

- 角のある形「L字」や「逆L字」等のなぞり書きに取り組む。
- サイズを見直す。大きくするか小さくするか，児童の書きやすいサイズを確認する。
- 書くときに「カクン」など音声をつける。
- 難しそうであれば，厚みのあるジグを使用するところから始める。

## 助言を受けての見直し(2回目)

- 角のある形「逆L字」と「L字」のなぞり書きに取り組み。 (角に●印あり)
- サイズを大きくし, A4用紙に1個分の大きさに下書きを用意する。
- 書くときに, 角の部分で「カックン」と音声をつける。

# 指導2の手続き

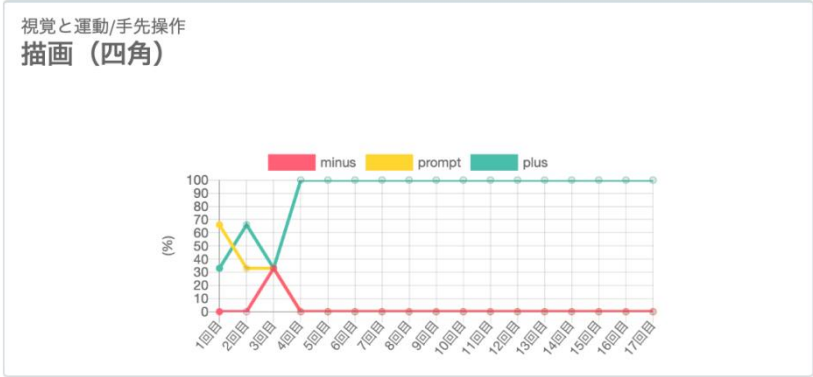
## ○「逆L字」「L字」 なぞり書き

- ①「カックン」と言いながら、指でなぞる手本を見せる。
- ②クレヨンでなぞらせる。
- ③「グッジョブ！」と言語称賛する。

- 「逆L字」「L字」のなぞり書きに取り組む。はじめは身体プロンプトを行い、慣れてきたら見守る。1枚目ができなかった場合は2枚目で身体プロンプトを行う。

# 指導2の成果

描画（四角） / 逆Lの長期的傾向



## 実施課題結果一覧

2020/12/08 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2020/12/09 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2020/12/14 逆L: - ⊕ ⊕	2020/12/15 逆L: ⊕ ⊕ ⊕
2020/12/16 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2020/12/17 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2020/12/18 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2020/12/21 逆L: ⊕ ⊕ ⊕
2021/01/07 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/13 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/14 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/19 逆L: ⊕ ⊕ ⊕
2021/01/21 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/22 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/25 逆L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/26 逆L: ⊕ ⊕ ⊕
2021/01/27 逆L: ⊕ ⊕ ⊕			

描画（四角） / Lの長期的傾向



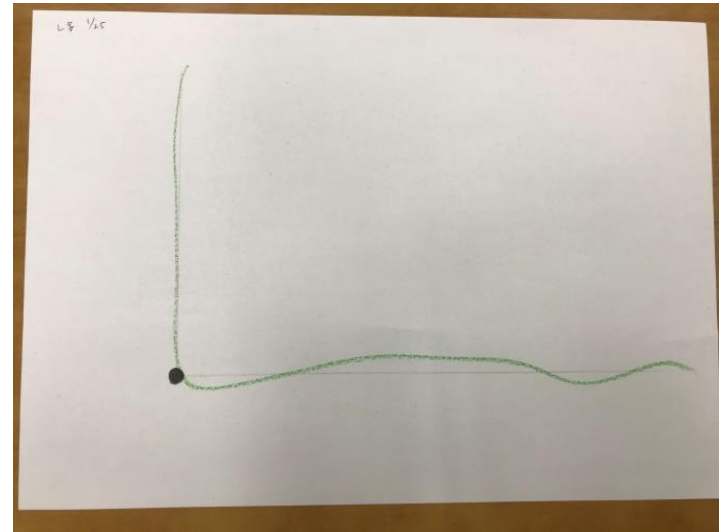
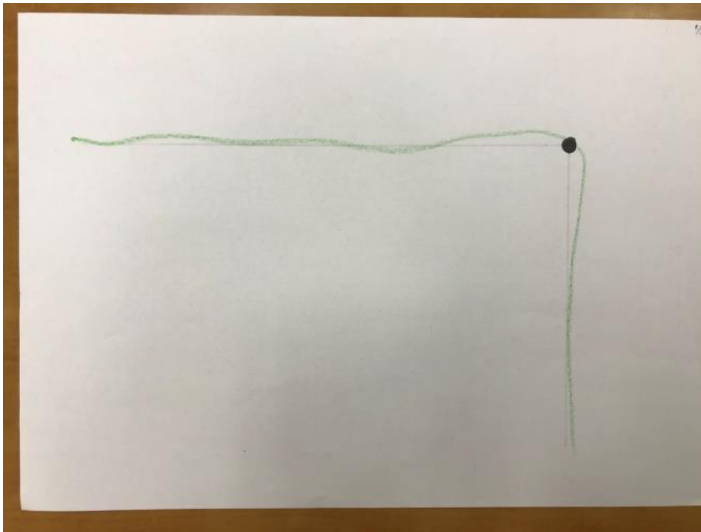
## 実施課題結果一覧

2020/12/15 L: ⊕ ⊕	2020/12/16 L: ⊕ ⊕	2020/12/17 L: ⊕ ⊕ ⊕	2020/12/18 L: ⊕ ⊕ ⊕
2020/12/21 L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/13 L: - ⊕	2021/01/14 L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/19 L: ⊕ ⊕ ⊕
2021/01/21 L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/22 L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/25 L: ⊕ ⊕ ⊕	2021/01/26 L: ⊕ ⊕ ⊕
2021/01/27 L: ⊕ ⊕ ⊕			



## 指導2の成果

- 「逆L字」「L字」とも大まかな形をなぞって書くことができた。●印を通過して曲がることはできたが、クレヨンをいったん止めて直角を書くことは難しかった。



- サイズを大きくしたことで腕全体を動かして、角で曲げることがしやすかったように感じた。

# ここが成功のポイント

## ～助言を受けて～

○多面的なアプローチに気づくことができた。

- なぞり書きだけでなく、模写にも取り組むことで、「書く」ことの幅が広がった。
- 使用する筆記具やサイズを見直すことで、目標を達成するために適した教材を考えることができた。
- 「角」のあるひらがなをなぞることが難しかったが、まず「逆L字」や「L字」から取り組むことで「角」で曲げることの指導ができた。

# ここが成功のポイント

## ～助言を受けて～

○ポジティブに評価することができるようになった。

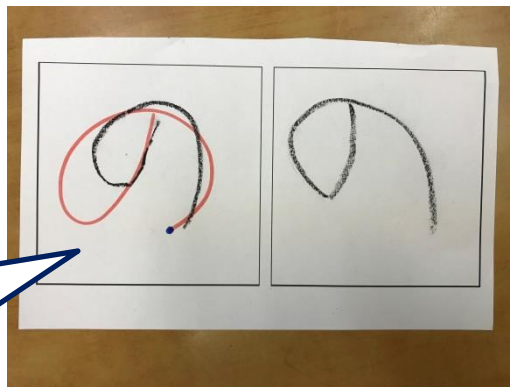
- これまでは、下書きとのずれや終点の印できっちり止めること等に注目していたが、助言を受けたことで、児童が大まかに形をとらえて書くことができることをポジティブに評価することができるようになった。
- 児童の実態に合った「書く」に関する目標をどこに設定するか改めて検討することができた。

# ここが成功のポイント

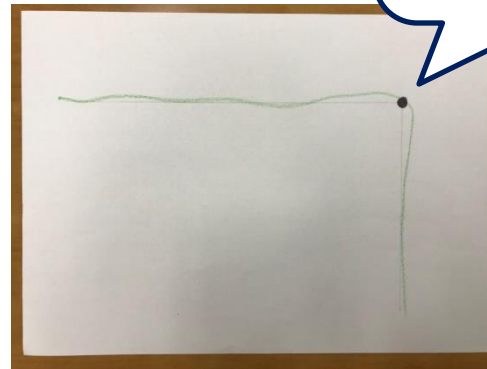
## ～児童の好きなことを活かして～

- 書くときに「ピタッ」「カクン」などの音声をつけたことで、ポイントがわかりやすかったと考えられる。児童はリズムや歌が好きで、声に出しながら書くことが多かった。

くるりん,  
ピタッ



カクン



# ここが成功のポイント

～児童の好きなことを活かして～

□ なぞり書きの学習と平行して、ぬりえやお絵かきワークなどにも取り組んでいた。児童はイラストやかわいい物が好きで、興味をもって取り組んでいる。

「書く」学習をしたことで、簡単な顔のイラストの模写や、輪郭枠を意識したぬりえができるようになってきている。運筆のコントロール力に成長を感じる。



# ここが成功のポイント

## ～児童の好きなことを活かして～

- 家庭でも児童が「〇〇書いて」などと言って、好きな物をひらがなで書いてほしいと要求があるとのこと。書くことに興味が出てきていると保護者も感じておられた。
- 好きな物が文字や絵などで書ける楽しさを知ると、今後も「書く」学習を進めていく意欲になると考える。
- 将来的には児童の余暇活動の幅が広がり、QOLを高めることにつながればと考えている。